

教育費の父母負担について考える

徴収金の合計額が月1万円以上になるときもあるんです

- 今、ローマ字ドリルもあるんですね。昔はドリルは使ってなかったけど。
- 図工や家庭科など、教材を業者からキットで購入するんですね。できるものが皆同じになってしまう。
- どんな材料が必要で、どのように材料をそろえるのか、ということは学習の範囲に入らないのでしょうか。家庭科でエプロンを作るにも、材料が全部セットになっていて、柄も3種類くらいの中から選択するだけ。どういうデザインにするか、どういう生地を選ぶのか、そういうことはやらないんですね。小学校でやる家庭科というのは、運針だけ？
- セットだと割高になりませんか。家庭にある生地を利用したり、残っている紐を使ったりすることもできない。
- 校外学習費 3500 円。1 年間に何回も校外学習に行くんです。浄水場に行ったり、ビール工場に行ったり。4年生なので5年生で行く林間学園の費用(21,000円)を積み立てているので、その費用も徴収されます。徴収金の合計額が月1万円以上になるときもあるんですよ。負担できない家庭も出てきますよ。
- 中学校は生徒会費も徴収されています。生徒会費から部活動の費用が出ていますから。年度初めの生徒総会で各部の予算配分を決めています。生徒手帳も校章も父母負担。
- 修学旅行や林間学園の費用、それに小学校6年生と中学3年生の時の卒業対策費というのも馬鹿になりません。今から15年前の中学校の修学旅行費用が51,944円。11年前の中学校の卒業・進路対策費が予算で30,000円。18年前の小学校の卒業対策費が予算で16,000円です。今も同じかそれ以上徴収されているのではないのでしょうか。
- 中学校では、入学時に制服(標準服)や指定のバッグ・ジャージー上下・体操服・上履きなど、今から16年前で10万円近くかかりました。今ならいくらかかるのでしょうか？



お金がかかる部活というのは、それだけ活動が過熱しているということ

- 部活をやっていると、ジャージーは消耗が激しくて、何着も購入しなければならなかった。
- 今、部活は部活のそろいのジャージーがある。部にもよるだろうけど。お金のかかる部とそうでない部がある。
- シューズにもお金かかるし、サッカーボールやバドミントンのシャトルなどの用具費を親から徴収するところもある。
- 親が出している生徒会費からも部活の用具代などが配分されている上、さらに個人的に徴収されたり負担したり。三重にとられている。
- もともとの学校予算では足りないような活動をしているからです！



- 大会の数が増えているし、練習試合も増えている。
- そういう部活動を支えて、応援しているのは親。
- 朝 5 時ごろ、中学校の前に保護者も集まって、試合に同行する。車を出す保護者もいる。監督やコーチのお弁当を保護者が持ち回りで作ったりもする。
- 表に出てこない部活動にかかる費用が相当ありそうですね。
- 全国大会や関東大会などに出るとなると、遠征費用がかかる。PTAがその費用を補助したいと言い出す。PTA会費からもいろんな形で部活援助費が出ている。
- 顧問の先生が熱心だと毎週のように練習試合があり、その交通費が馬鹿にならない。毎週日曜日に往復 1,000 円程度の交通費がかかる。そういうもろもろの経費を合算していったらどれくらいになるのだろう？
- お金がかかる部というのは、それだけ活動が過熱しているということ。そこまでやる必要があるのかという問い直しをしていかななくてはならない。お金の問題を突き詰めるとそういう問題が見えてくる。
- ある先生が「今の子どもたちは夢がないから、夢をもってほしい」といいました。皆がみんなイチローや北島康介になれるわけではないけど。夢ということと非常に高いレベルの部活をやっている子たちの充実感の善し悪しをいったいどう判断すればよいのか。全国大会まで出て行くような子たちはそれなりの充実感・達成感を持っている。
- 夢を持たせるようなプレッシャーがある。自己実現という言葉があるから子どもはかえって苦しくなるということがある。何か成し遂げなければいけないというニュアンスを感じ取ってしまう。そういう生き方ばかりではないのに。
- 才能教育の残酷さもあるし、早くから進路が決まっていればいいのかということでもなくて、早くルールを敷かれると苦しいということもある。試行錯誤をして、迷うことも大事。それと部活の加熱度というのを子どもたちはどう受け止めているのか。
- お金をかけなくてはできない部活だと、お金をかけられない家庭の子どもはやめるしかない。そのことを訴えても、『そこは自己責任の世界』と言われる。義務教育で自己責任はありえない。根本的な部活のあり方を考えないといけない。
- ただそれだけに没頭するだけの 3 年間でいいのか。もっといろんな経験をして、その中の一つの部活であればいいのだけれど。
- 私の長女が中学時代は、部活はあくまでもカリキュラム外で、クラブ活動が特別活動としてあった。それが部活がクラブ活動の代替になって、さらに変わって部活動が特別活動として位置づけられるようになった。
- 皆で力を合わせて何かを成し遂げるとか、自分でちょっと上のレベルの課題を設定し

訂正：現行の学習指導要領では、特別活動からクラブ活動が削除されましたが、部活動が特別活動として位置づけられてはいませんでした。

また、2012 年から施行される中学校新学習指導要領の総則第 4 の (13) には、『生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うようにすること』と記されています。

てそれを達成していくとか、いろいろな意味で部活動の良さがあると思うけれど、その良い面がなかなか見えてこない。

- 部活の大会が平日にあると、選手がゴッソリいなくなって、授業が成り立たない時がある。
- 部活動は人間関係を学ぶところと部活の保護者会で言われる。
- でも、部活をやめるやめなくて必ずもめる。なかなかやめさせてくれない。

今度英語が小学校で必修になりますよね

- 親が義務教育にお金がかかることをおかしいと思うかどうか。お金がかかることに不満を言う親があまりいない。
- これ位かかってあたりまえと思うのか、子どものためならこれくらい出しても仕方ないと思うのか。
- 父母負担金は給食費と一緒に銀行引き落としになっているところが多いので、あまり親は意識していないのかもしれない。
- 引き落とし手数料も馬鹿になりません。
- 用紙代やファイル代、確かに学年末にはファイルしたものを家庭に持ち帰るから受益者負担ということで父母負担になるけれど、受益者負担という考え方は義務教育の場になじむのか。
- ワークテストだって、先生方が自分たちで問題を作って印刷すれば用紙代だけで済む。既製のワークテストやドリルを使う、教材セットを安易に使うやり方が本当にいいのかどうか。
- 自分でテストをつくる時間が先生方にないのでは？
- テストをつくるのには結構時間がかかります。授業でやったことを吟味しなおして、その中の何を問うと、子どもたちが何をつかんでいるかが問えるのかと考えてつくるから。それを全教科にわたって作るのは大変です。
- 今度英語が小学校で必修になりますよね。聞いたところによると、専任講師を入れないらしい。今の体制で英語教育をやってくれと。だから現場はてんてこ舞いらしい。
- 小学校の教員免許には英語教育はない。だから何時間かの研修を受けて、英語の教員免許を持っていない人たちが英語教育をするんですよ。それが子どもたちの英語との初めての出会いになってしまう。
- 中学校からも圧力がかかっていて、その単元は中学校でやるから小学校でやらないでくれと。その中で何をやるかという、英語に親しむというとゲームくらいしかない。それを年間30コマ程度やることになる。いったい何の目的でやるのか。
- やるやらないの是非はともかく、やるなら専任の講師を入れるべき。
- それで英語ドリルとか、ワークとか、副教材を使うようになるのではないか。
- 松戸市の今年度の教育予算に、金額は明示されていませんが英語教育の副教材が予算化されていますね。松戸市が作っている副読本は、小・中の社会科副読本、自然環境読本、小学校の環境教育読本。それに英語教育副教材が加わっている。それらの副読本編集業務の予算が682万4千円。



- 英語教育を親は望んでいるのか？ とにかく英語がしゃべれるようになってほしいと望んでいるのか。
- 中学校での英語教育の先取りとして、基礎をつけてほしいという親の欲求もある。
- 総合学習で英語に取り組んでいる小学校が近隣にあると、同じ中学校には入った時に差がつくのではないかと心配する親もいる。
- たとえ英語がしゃべれたとしてもしゃべる中身がなければ黙っているまま。黙っているだけでは何の役にも立たない。論理的に組み立てて説得する内容が何もしゃべれない。ちゃんと自分の頭で考えて、相手がわかるように説明することが重要。
- 大勢の中で自分ひとりだけが違った意見を言うという力がなければ、英語圏では通用しない。



公教育では

様々な状況を抱えている子どもたちがいることを常に意識していなければいけない

- 今までも父母負担が多いのだけれど、最近のような経済状況で貧困家庭が増えてくると、その負担感は大きくなる。松戸市の統計資料で生活保護の被保護世帯数を見ると、平成 14 年度が 2487 世帯（3732 名）、平成 18 年度が 3617 世帯（5452 名）と、この 5 年間で 1.5 倍になっている。保護率は 14 年度 7.9% から 18 年度 11.5% へと増加している。この後の平成 19 年度 20 年度の数字はこの統計書にはまだ出ていないが、恐らくもっと増えているのではないかと思う。
- 生活保護を受けていなくても、準要保護と認定されると就学援助費が支給される。
- 国民健康保険の保険料滞納により、保険証を返還させられ「無保険」となった中学生以下の子どもが全国 1 万 8240 世帯、3 万 2903 人いると新聞報道されていましたね。
- 先生方も親たちも、公教育では様々な状況を抱えている子どもたちがいることを常に意識していなければいけない。
- 校外学習も貸し切りバスを利用するのと、路線バスや電車を利用するのでは、かかる費用が変わってくる。貸し切りバスを利用したわが子の校外学習は 5000 円もかかった。
- もう少し負担を少なくしてほしいと思ったら、親が声を出していかないと先生も気づかない。
- こういうことで声を出すと、他の親からどんなふうに見られるかと考えてしまう。突出するのを嫌がる。
- P T Aのお金の使い方のことをいつも総会で発言すると、「子どものためになるお金をど

就学援助費で援助される費目は、

- ① 学用品費等
(通学用品費、校外活動費を含む)
- ② 新入学用品等
- ③ 校外活動費(宿泊をとまなうもの)
- ④ 学校給食費
- ⑤ 修学旅行費
- ⑥ 医療費

ただし、要保護者への支給項目は「修学旅行費」と「医療費」のみ。(生活保護の教育扶助と重複するので。)

松戸市の平成 20 年度小学校要保護および準要保護児童就学援助費の予算額は、6885 万 3000 円。中学校は、8953 万 4000 円。

うしてケチるの？」と言われた。「子どものため」と言われると我慢してしまう人が多い。

- 心の中でおかしいと思っている人は今たくさんいると思う。だから声に出せる人が問題提起していかないと。
 - 24年から全面実施される新学習指導要領では、中学校の保健体育で武道が必修化されるが、その費用はどうなるのか？
 - 教育予算はやはりもっと出すべき。教育にお金をかけないと。
 - 先生を増やしてほしい。人間対人間で教えあっていく環境づくりが優先されるべき。
 - 先生に時間があれば市販のテストを使わなくても済む。教材研究もできるし、市販の教材セットを使わなくても済む。
 - 教育にお金をかけるとするのは、人の配置にお金をかけるということです。
- * 前回の会報に掲載した、松戸市内の小学校 6 年生と中学校 3 年生の学校徴収父母負担金の学校別明細を参考にしてください。その一覧にも出てこない中学校の部活費用や小・中学校の卒業対策費などはかなりの負担額になります。今一度注意をして見ましょう。

「武道の防具や畳などの学校の備品については、すでに備品費として地方交付税措置がなされていますので、防具等の備品の整備に係る予算の確保に努めていただきたいと思います。」（文部科学省のホームページより）